

武中の風



＜発行＞
鹿児島市立
武中学校
鹿児島市武 3-42-1

真のたくましさ

校長 前田 浩二

県下一周駅伝が今年も開催され、新聞やテレビで選手たちの活躍ぶりが連日報道されました。この時期になるといつも思い出す出会いがあります。それは真のたくましさということを私に教えてくれたある出会いでした。

私はある離島の中学校で三年生の担任を務めたことがあります。その学級にA君はいました。彼は、父親も学んだ鹿児島市内のある公立高校へ進学を希望していましたが、合格するには彼の学力はまだ足りていませんでした。しかし、彼はあきらめずに黙々と受験勉強に打ち込みました。毎晩遅くまで机に向かい、着実に学力を伸ばしていききました。そして、とうとう合格できるだけの学力を身に付けることができました。しかし、そんな頑張り屋のA君に受験の神様は微笑んでくれませんでした。私は電話で不合格を伝え、すぐに彼の家へ向かいました。慰めの言葉や励ましの言葉などあれこれ考えながら行きましたが、本人を目の前にしたとき、言葉が出なくなりました。「がんばったのになあ・・・」そう言うのが精一杯でした。A君は最初無理に笑

おうとしていましたが、「先生・・・。」と言ったきり言葉を詰まらせました。そして、二人とも涙があふれてきて止まりませんでした。受験とは残酷なものですよ。

A君は第二希望であった私立高校へと進学しました。それは、失意の進学だったと思いますが、彼の活躍はここから始まります。彼は未経験であるにもかかわらず、県内でも有数の駅伝部へ入部し、努力に努力を重ね、二年生の時には県内選りすぐりの特待生たちと肩を並べるまでになりました。さらに地区の代表として県



となりまして。当日は私も離島から漁船で海を渡り、声を限りに応援しました。そのときの彼の力強い自信にあふれた走りを見たとき、うれしくてたまりませんでした。その後、大学でも名だたる全国大会で彼は活躍しました。彼は言います。「あの受験で失敗したときの涙が僕の原動力です。」と。子どもというのは我々大人が考えている以上にたくましいものです。彼との出会いが、真のたくましさというものを私に教えてくれました。

今年も公立高校の一般入試の日が近づいてきました。三年生のみなさん、どうか最後まで気を抜かず勉強を頑張ってください。入試の結果は誰にもわかりませんが、はつきりと言えることは、頑張ったことは必ず人生の糧となるということです。頑張った経験が、これからのみなさんの長い人生の中で、必ず背中を押してくれます。みなさんのラストスパートを期待しています。



子らの送る熱きエール

一月一九日皇居にて「歌会始の儀」が開かれました。題は「和」で、天皇・皇后両陛下や皇族の歌が披露されました。その中で、秋篠宮妃紀子さまが、「鹿児島に集ふ選手へ子らの送る熱きエールに場は和みたり」と詠みました。昨年十月に、かごしま国体・かごしま大会が開催されて、本校の一・二年生が都道府県応援団として開会式に参加しました。選手に声援を送る子どもたちの様子を歌にしていたら、さらに素晴らしい思い出になりました。



若武セミナー・家庭教育学級閉講式

両社会教育学級の閉講式が行なわれました。学級員に修了証書を授与して、校長が教育講話を行ないました。学校のために奉仕活動や門松づくりを行なってきた若武セミナーの方々、毎回工夫して講師を呼び活動をしてくださった家庭教育学級の方々ありがとうございました。



能登半島地震募金活動

令和六年一月に発生した能登半島地震により、石川県等に甚大な被害が発生しました。この災害による被災地の方々の生活を支援するため本校PTAと生徒会が連携して募金活動を行いました。一日も早い日常生活に戻ることを願っています。

